

近畿中国森林管理局

広島北部森林管理署 ひろほく通信

庄原実業高校への出前講座を行いました

広島北部森林管理署では、県立庄原実業高校環境工学科コースの生徒を対象にした2回目の森林環境教育を、11月15日に行いました。

今回のテーマは、「森林・林業・木材産業の現状と課題」と「新たな木材利用」について行いました。戦後造成した人工林を中心に資源が充実し、その多くが利用期を迎えていること、国内全体の木材需要量が年間約8,000万m³で推移し、近年国産材の生産量の増加、木材自給率の上昇など、林業の活力を回復しつつあることや、新たな木材利用としてCLTによる高層階の建物が国内でも建てられていること、学校、病院などの建物での木質化が進んでいるなどについて、データや資料に基づき、丁寧に説明しました。次回は、来年に第3回目の森林環境教育を予定しています。



森林環境教育の様子



メモを取る高校生



真剣に耳を傾ける高校生



森林環境教育の様子

優良木材展示会に出席しました

広島県木材組合連合会主催の令和元年度優良木材展示会が、11月22日、安芸太田町の広島林産中市協同組合木材共販市場において開催され、広島北部森林管理署からも出席しました。この展示会は、西中国山地における優良材を広く集荷・展示し、木材需要の促進とともに、素材生産事業者の生産意欲の高揚と生産技術の向上による県内木材産業の活性化を図ることを目的として、毎年開催されているもので、今年度の市売りでは、県内の森林組合、事業体などから、スギ、ヒノキ、モミ、アカマツなどの優良材を中心に約1,900m³が出品・展示されました。市場に出品・展示された優良材は、その後競り売りにより買い受けられ、高値がつく出品材もありました。広島北部森林管理署では、引き続き国有林材(素材)を市売り、システム販売などを通じて、安定的に供給していきます。



出品された木材



優良木材の競り売りの様子



林野庁長官賞の木材



近畿中国森林管理局長賞の木材

林務担当者の事業地の見学会を行いました

今年度、森林経営管理制度が運用されたことから、広島北部森林管理署では、市町の林務担当者等を対象にした意見交換会に取り組んでいます。今回2回目となる意見交換会では、現場に行き、実際どのような作業(施業)が行われているのか観ていただく事業地見学会を行いました。まず、大土山国有林での事業地では、きれいに枝葉が等高線上に筋置(地拵え)きされ、haあたり2,100本のヒノキ苗木を等間隔で飢え付けし、更に区域周辺には、残存木を活用してシカ被害防止ネットを張る作業を見学しました。また、安芸北森林組合が、民有林で高性能林業機械による列状間伐作業を実行中の事業地を見学しました。日頃、作業現場を観る機会の少ない林務担当者が、実際の作業現場を観たことで、今後、各市町が進める各種施策の参考になればと考えています。



森林施業について説明



列状間伐について説明する職員



壊れない作業道を確認



説明を聴く市町の林務担当者



近畿中国森林管理局 広島北部森林管理署
 TEL:0824-62-2155/FAX:0824-62-2156
 〒728-0012 広島県三次市十日市中2-5-19

